

障害者支援施設の建て替えに伴う環境移行に関する研究 ～建て替え前施設における支援の様態～

キーワード：障害者支援施設，知的障害，建て替え，
環境移行，支援様態

石井研究室 加藤 寛崇

1. 研究の背景と目的

日本では1970年代に各地にコロニーと呼ばれる重度・重複障害を持つ障害者を受け入れる大規模支援施設が登場した。可能な限り自宅・地域での生活を送ることが理想とされている現在だが、受け皿となる地域の整備や重度者への対応から施設の利用を余儀なくされている人がいるのも現実である。また、古いコロニーは収容施設としての位置づけで居住環境としても十分ではないものも多く、現在建て替えの時期にきている施設も多い。

本研究では、4人部屋で居住面積も十分ではない現施設から全室個室・ユニット型の居住性に配所した施設に建て替えが進められている施設における現状の職員の空間利用と支援の内容の調査と分析を通し、建て替えによる「環境移行」が支援に与える影響を明らかにして、建て替え後の比較研究につながる知見を得ることとする。

2. 調査対象施設の概要と調査方法

研究の調査対象のF施設は、宮城県黒川郡大和町にある。3つの居住棟があり、それぞれ入所利用者の特性ごとに分かれて入所している。今回の調査対象の0園は、重度障害を持つ利用者が多く入所し、3つのファミリー（居住単位）で構成されている。合計60名の入所者が入所し、26名の職員で支援にあたる。入所者・職員とも全員男性である。

調査は、2019年9月10日（木）に1回目調査（Cファミリー）、11月27日（水）に2回目調査（A、Bファミリー）を行った。調査員7名（2回目は10名）があらかじめ割り当てた担当の職員の勤務（5時から20時までの15時間）に帯同し、職員の空間利用と支援内容調査を行った。調査は調査シートへ1分毎に職員の滞在場所、行為、会話の相手、会話内容、姿勢を記入した。

3. 調査結果

職員の滞在場所を分析すると、各ファミリーもデイルームとスタッフルームを中心に職員が滞在していることがわかる（図1）。最も滞在割合が高いのは、廊下（19.6%）であるがこの内訳としてデイルーム周辺の廊下が83.2%を占める（図2）。全体でみると52.9%となり、1日の半分以上を占めている。そこからデイルームとスタッフルーム付近に滞在が集中し、支援が行われている。

0園における職員の姿勢も分析した。図3に示すように最も多いのは立位（動）の31%である。次いで立位（停）で29%、椅座位が20%であった。立位が60%に上り1

日の多くの滞在・行為が立位で行われている。Aファミリーのみが椅座位の割合が立位（動）の割合を上回る。Aファミリーは他のファミリーからやや離れた場所に位置しており、他ファミリーからの入所者の移動が少ない。そのためAファミリーの入所者のみを支援すればよいので落ち着いた支援ができていた結果と考えられる。

支援の内容別の割合を図4に示す。「生活補助」が39%と最も多かった。その中で最も多かったのは「見守り」（50%）で生活補助の半分を占める。次いで「食事の準備・片付け」（26%）となった。食事・入浴・排泄の支援である「基本介護」14%で2番目に多いが、生活補助の1/3程度である。その中では、「入浴支援」（30%）が多く、次いで「整容支援」（20%）、「移動支援」（17%）となる。1回目の調査日には入浴支援なかったことから、入浴の有無によって基本介護の割合が大きく変化している。「その他」の項目では「休憩」が50%を占める。職員のみでの「移動」はその他のうち9%である。

職員別・時間別に基本介護の量に着目すると（図5）、朝の起床から朝食までの時間（起床・排泄・整容・食事支援等）と夜の夕食前後に基本介護が集中している。また、A、Bファミリーは入浴がある13時～14時にも集中している。これら以外の時間では、間接的な支援や事務作業などの行為が行われている。重度の障害ではあるが、日常生活の基本部分での支援が主である支援の様態が示された。

4. まとめ

調査を通し、支援が行われる場所がデイルームや食堂など共有空間とその付近で支援が行われていることがわかった。入所者の滞在と連動するため、空間の大きさや配置が変わると職員の支援も影響を受けることが予測される。また、コンパクトな構成であることから職員のみでの「移動」割合が少ない。あくまで入所者の自立支援が主となる施設の特性、現施設での支援様態が明らかとなった。一方で、施設側が定めた運営スケジュールに沿って一日の支援が行われており「施設的」な要素も目立った。今後、建て替え移転が行われるが、空間も大きく変わる事から支援様態や滞在（入所者・職員）がどのように変化するのか（しないのか）も注目したい。

謝辞：本調査は東北工業大学研究倫理委員会の承認を得て実施している。調査にご協力くださった入所者、施設の皆様には、心から感謝申し上げます。

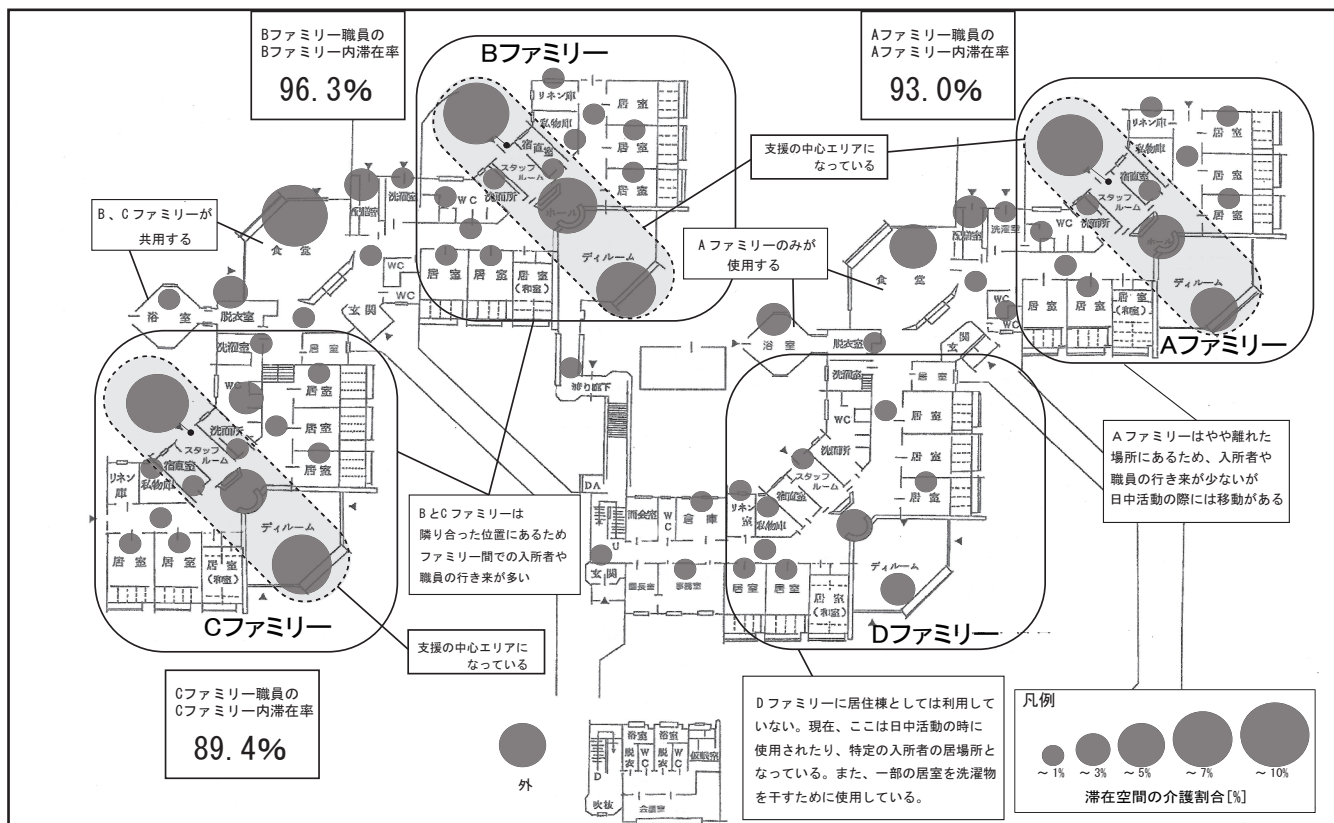


図1 対象施設〇園の平面図と職員の滞在頻度

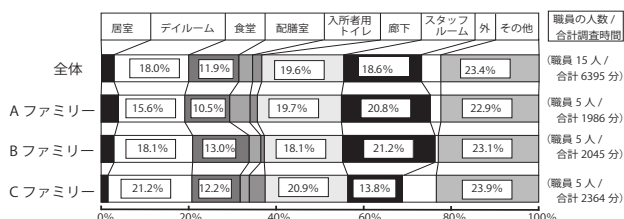


図2 職員の滞り場所とその割合

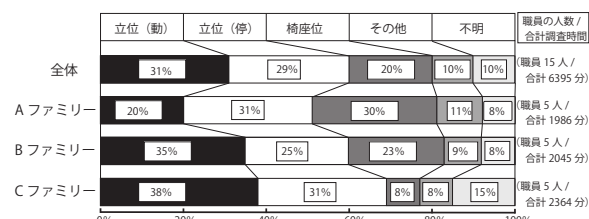


図3 職員の姿勢の内訳とその割合

表1 職員の支援内容の分類

支援内容	説明
基本介護	食事支援や入浴支援等の直接支援を行うもの
健康管理	投薬支援や健康チェック等の健康管理に関係するもの
環境整備	居室や共有空間等を整える為に行われるもの
物品管理	消耗品の補充や備品管理等、物品管理に関係するもの
直接事務	資料の確認や書類記入等、事務作業に関係するもの
生活補助	見守りや食事支援の準備・片付け等、生活補助に関わるもの
会話	会話に関係するもの(入所者・職員)
その他	移動や休憩等、上記以外の行為

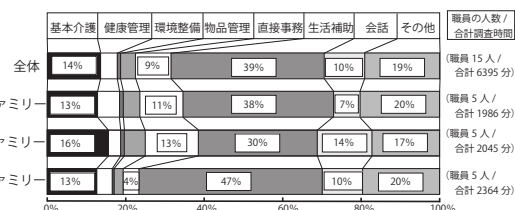


図4 職員の支援内容の内訳とその割合

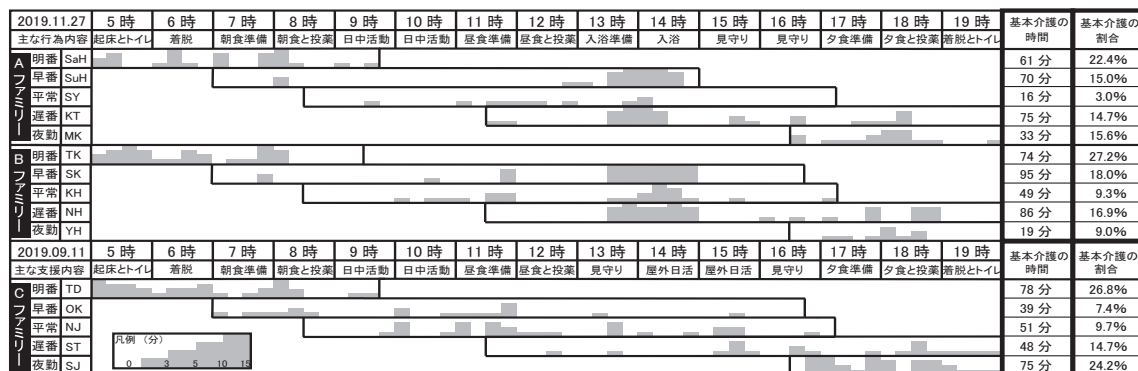


図5 職員の時間ごとの基本介護の量

基本介護には、5時から8時、13時から14時、17時から18時の3つのピークがある。5時から8時には、起床支援や整容支援、食事支援などが行われる。17時から18時には、主に食事支援や整容支援、排泄支援などが行われている。また、Cファミリーのみ13時から14時までのピークがない。Cファミリーのみ入浴がない日のためである。このピークは施設のスケジュールに沿って発生している。